

令和3年度 第2回立山町総合教育会議 議事録

1. 開催日時 令和4年2月18日(金) 11時～12時15分
2. 開催場所 立山町役場4階 全員委員会室
3. 参加者 町長 舟橋貴之
教育委員会 教育長 杉田孝志
委員 金川良子 久保田真砂美 柴田智子 向雅己
4. 事務局 企画政策課 林弥生 山田真樹子 海老原理恵子
教育課 青木正博 作田英信 松島祐子
5. 傍聴人 2名

協議事項

●「読解力」向上3か年プログラムについて

■「読解力」向上3か年プログラム(抜粋)

1. リーディングスキルテスト(RST)の受検
2. 研究指定校(町内小学校2校、雄山中学校)の選定及び研究発表会等の実施
3. プログラム担当職員の配置
4. 先進地への視察研修の実施

教育課より読解力向上に向けた新年度事業について説明後、町長と教育委員との意見交換が行われた。

◇町長の発言

- ・全国学力テストの結果において、町内の小学校は常に県内上位であるにもかかわらず、中学校は結果が出ていない。学力テストの成績で上位を目指したいと言っているわけではなく、全ての子どもたちに基礎学力をつけたい。子どもたちの学力分布を見ると、ラクダのこぶのように2つの山があり、その下位の山を平均近くまで引き上げることができればと思っている。そのために、スクールケアサポーターの配置や大学生による放課後学習教室、通学合宿、夏休みの短縮など教育環境の整備に取り組んできた。エアコン、電子黒板、グラウンドなど教育設備の整備状況は県内でもトップクラスだと自負している。また、かねてより学校教育アドバイザーとして富山大学の先生を招聘し、不登校の子どもたちの「見守り会議」を主導してもらっており、長引くコロナ禍で影響を受けている子どもたちを憂慮している。
- ・学力の中でも、読解力向上を重点としたい。教科書を読めていることが大事。誰にでも教科書は与えられる。立山町の子どもたち全員に、問題の意味が「わかった」「書けた」という嬉しさを実感してほしい。
- ・そこで、全国学力テストにおいて、東京23区中、長らく下位だった板橋区を3年で上位に押し上げた、新井紀子先生(※)のチームに立山町を指導してもらうことにしたい。新年度予算では先進地である東京都板橋区を視察する

※ 国立情報学研究所社会共有知研究センター長・教授、東京都教育委員会委員。文部科学省の科学技術・学術審議会総合政策特別委員会委員。「AI vs 教科書が読めない子どもたち(2019年ビジネス賞大賞)」や「AIに負けない子どもを育てる」ほか著書多数

◇教育委員の意見

- ・学びの道筋である教科書を読み解く力をつけることには共感する。
- ・町の教育環境を活かしつつ、単元のねらいの達成に主眼を置きながら、新井先生の方法を取り入れてほしい。
- ・教科を絞って小学校と中学校で連携した内容で進めていけばどうか。
- ・教員の負担軽減を考えなければ、教員の質は上がらない。本事業で教員の負担が増加することと町の財政負担が心配である。
- ・平均点以下の子どもたちに、学習意欲を持たせることが最も大切である。
- ・読み解く力の育成は大変必要なことだと思う。
- ・リーディングスキルテストの費用対効果については疑問なところもある。読解力は日常の学習の積み重ねで向上していくものであり、一時のテストではスキルアップを測れないのではないか。
- ・先生方の負担や、子どもたちの苦痛とならないようにしてほしい。
- ・現場の先生方が「読解力向上」に対してきちんと理解しないと、子どもたちはついていけない。
- ・「読解力」を身に付け、人の言葉を理解できるようになることは大事なことである。
- ・中学校の授業ではノートを書き写すことに必死で理解が追い付いていないという問題があると聞いている。授業のやり方を見直すことも必要ではないか。

◇教育長の意見

- ・町内小学校の先生方のレベルは高い。小学校では丁寧に指導されているが、中学校の授業の進むスピードについていけない生徒がいると思われる。スピードに慣れる力を、小学校のうちからつけなければならない。
- ・現場の先生方は、生徒の学習スキルではなく学習意欲の向上が大切と考えている。
- ・町の風土や人に合った取り組みを進めていきたい。また、先生方や子どもたちへの過度な負担にならないように配慮しながら、子どもたちのためになるように進めていきたい。

→全委員が「賛成」

報告事項

●新型コロナウイルス感染症対策について

- ・小中学校（7校）内消毒清掃作業（一日おきに実施。）を継続して実施していることを報告

[閉会時刻 12時15分]